

第2話 デジタル化する心(4) 三つのエコロジー

●本稿のタイトル「電子心母」は、伝説のロックバンド、ピンク・フロイドの「原子心母」(1970)にヒントを得た。この曲は、ペースメーカーを装着して子供を生んだ母の、NYで話題となった実話を題材としている。本稿のタイトルとして選ぶに当り、念のため検索を試みたところ、一件ヒットした。メルマガ氏は、「マトリックス」—電子心母は白うさぎの夢を見るか?」の表題で、当代の人気映画を語っていた。

ところで、「白うさぎの夢を見るか?」は、SF作家フィリップKディック原作「アンドロイドは電気羊の夢を見るか」(1968)をもじっている。この作品は、ハリソン・フォード主演「ブレイドランナー」(リドリー・スコット監督)として1982年に映画化された。ロボットが人間と共存する社会をいち早く描いた、SF映画の名作だった。主に福祉、教育の世界の話だが、両者の共存は経済産業省が掲げる国家的課題でもある。だが私は、人類にとって予想よりはるかに重い課題だと受け止めている。以下、未来社会への思考実験をも兼ね第2話を終える。

●小説「アンドロイドは電気羊の夢を見るか」は、「西洋では眠るときに羊の数を数える習慣があるが、進化したAIにもできるのか、という趣旨からと思われる」とウィキペディアにある。だが原作者は夢に希望の意味をも託していた。『見るらしい。だか

らこそ、彼らはときどき雇い主を殺して、地球へ逃亡してくるのだ。』主人公のこの台詞から、原作者がアンドロイドに感情を移入していることが伺える。彼にとって、アンドロイドは「人間とは何か?」に答えるための舞台設定だった。彼はその答えを次のように語る。『…あなたがどんな姿をしよう、あなたがどこの星で生まれようと、そんなことは関係ない。問題はあなたがどれほど親切であるかだ。』彼にとっては、『コピーも原物も、親切であればすべて本物だった。』(『』内は、原文をそのまま引用した。)

●原作者は、人と共存する親切に
振舞う機械を夢見たが、

親切であるためにはどこかで愛が働き、愛のどこかでは必ず「私」が働く。親切な機械には、「私」という機構が不可欠である。それにしても、愛として働き、状況に応じ柔軟に働く可塑性を持ち、その中で一定不変の「私」であり続け、時には壊れて無くなる「私」という神秘的機構を人はモノにできるだろうか。

●さて、人間は、自然というかけが
えのない環境から生まれた。

人間がユビキタス社会と呼ぶ、知能化環境そのものの社会は、人間とロボットが相互作用し合う、ある種の生態系を成すだろう。映画『マイノリティー・レポート』で、電車に仕組まれた人工知能が、そこに乗込んだ主人公の虹彩から本人を特定し、電車から降車後も主人公を追跡し、今度は知能化した駅ビ

ルの壁面から「アンダーソン君!」と呼びかけ、主人公のためのスポット広告を壁面に映し出す、米国のアカデミアでも話題となったシーンは、その相互作用を象徴する。この場合、都市自体が巨大な人工生態系となり、人間が自然から生まれ自然と一体化したように、ロボットも又、人工の生態系から生まれ、都市と一体化する。想像を逞しくすれば、近い将来、人間とロボットはそれぞれ、自然、社会という二つのエコロジー(生態系)の主演として共存する世界となるだろう。十数年前、東京造形大学柏木博教授(現、武蔵野美術大学)から、仏の哲学者F. ガタリの著書「三つのエコロジー」を薦められた。その中で著者は、人間を取巻く三つの生態系、自然・社会・精神の融和を唱えていた。第一の自然、第二の社会に続く第三のエコロジー、精神はほぼ「私」と等価である。人とロボットが共生する社会の繁栄は、人と機械の「二つの私」の融和にかかっている。脳—機械インターフェイスが、そのさきがけの研究と考えてはどうだろうか。電気羊の夢を見、親切で、相手に共感を示す「私」を持つロボットは果たして登場するだろうか。

(参考引用文献)

- 1)「アンドロイドは電気羊の夢を見るか?」(フィリップ・K・ディック著、早川書房)
- 2)「三つのエコロジー」(フェリックス・ガタリ著、大村書房)



●編集後記

4月、新入学シーズン到来。小学校入学式の時、新しい真っ白なハンカチに名前を書いて左の胸にピンで留め、母に手を引かれて校門をくぐったのは、指の数では足りないほど前の話。身体測定、健康診断も新学期の行事の一つだった。年を重ねるに連れ、一つ一つと健康診断の項目が増え、時としては、顔をゆがめながらバリウムを飲んだり、内視鏡検査を受けたりと憂鬱な気分になることもある。ピクニック気分とまでは行かなくても、もうちょっと明るく健康診断を受けたいな。それには日々の健康管理が大事、腹八分目、お酒は程ほどにと自分に言い聞かせています。(あしだ)

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からの便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: eigyo@nts-book.co.jp

NTSニュース

2007年4月号(通巻98号)
2007年4月6日発行